

【様式1】

概要書

研究名	椎茸栽培の自動化に関する実用装置の製作
民間機関等 (相手方)の名称	森産業株式会社
研究の概要	<p>森産業は1942年(昭和17年)、創立者である農学博士、森喜作が世界で初めてしいたけの人工栽培法を確立し、農山村に生きる人々に福音をもたらして以来、2018年(平成30年)に創立75周年を迎える。当社は、しいたけ産業の礎を築き、種駒(たねごま)などの種菌(しゅきん)をはじめ、きのこ栽培に不可欠な栽培資機材を生産者へと提供し、きのこを中心としたさまざまな事業展開を行い、ひいては消費者の豊かな食生活への貢献を目指しています。</p> <p>きのこの生産者にとって、「多収量・高品質・低コスト」は普遍的テーマであり、ユーザーの利益擁護という生産財戦略のポイントでもあり、創業以来、このテーマに真摯に取り組み、新品種や栽培法の開発から各種栽培資材・機器・省力施設の開発と供給を通じてきのこ生産の効率化・規模拡大・経営改善に向けての強力な支援を行っています。</p> <p>しかし、しいたけ栽培の現場では、人手による作業が大部分を占めており、生産の効率化・省力施設の開発は喫緊の課題であり、手作業を機械化・自動化することが求められているのが現状です。昨年度は、きのこ生産現場での問題点について調査・研究し、菌床しいたけの除袋工程に課題を設定し、機械化が可能かどうかの検討を行いました。その後、機械化・自動化のための基本構想設計を検討し、開発課題実習にて試作機を作成しました。今年度は、試作機の問題点についての対策を検討し、実用機となる装置の設計と製作を行い、最終的に実用機としての検証を行いました。</p> <ol style="list-style-type: none">1. 除袋試作機の問題点の対策について検討2. 実用除袋装置の設計・製作3. 実用除袋装置の検証